はじめに

本書は、文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」教育プログラムにおける、平成17年度自己点検・評価報告書である。

本教育プログラムは平成17年10月下旬に採択決定通知をうけ、すぐさま本格的な展開にむけて、教員と学生の精力的な諸活動が開始された。本報告書は、平成18年度からの新カリキュラムの展開にむけた始動期である5ヶ月間の活動の自己点検・評価書であり、次年度にむけての改善点や方策を提案、明記している。

本教育プログラムの実施にあたっては、推進組織（次頁参照）を採択直後に立ち上げ、教育プログラム推進委員会の中に、カリキュラム部会、推進（プロセス管理，自主活動支援）部会、FD部会、評価部会、広報部会の5つの部会をおき、教育プログラムの推進と改善の仕組みに関する議論を種々重ねてきた。また、新教育プログラムを円滑に推進し、学生、教員の教育研究活動を支援していくために、大学院教育推進支援室を全国の大学院に先駆けて研究科内に設置した。

専攻全体として、現代社会における女性研究者の必要性を再認識し、自立した女性研究者の輩出の責務を改めて捉え、女子大学大学院におけるその養成過程の再構築をおこなう契機を得た。

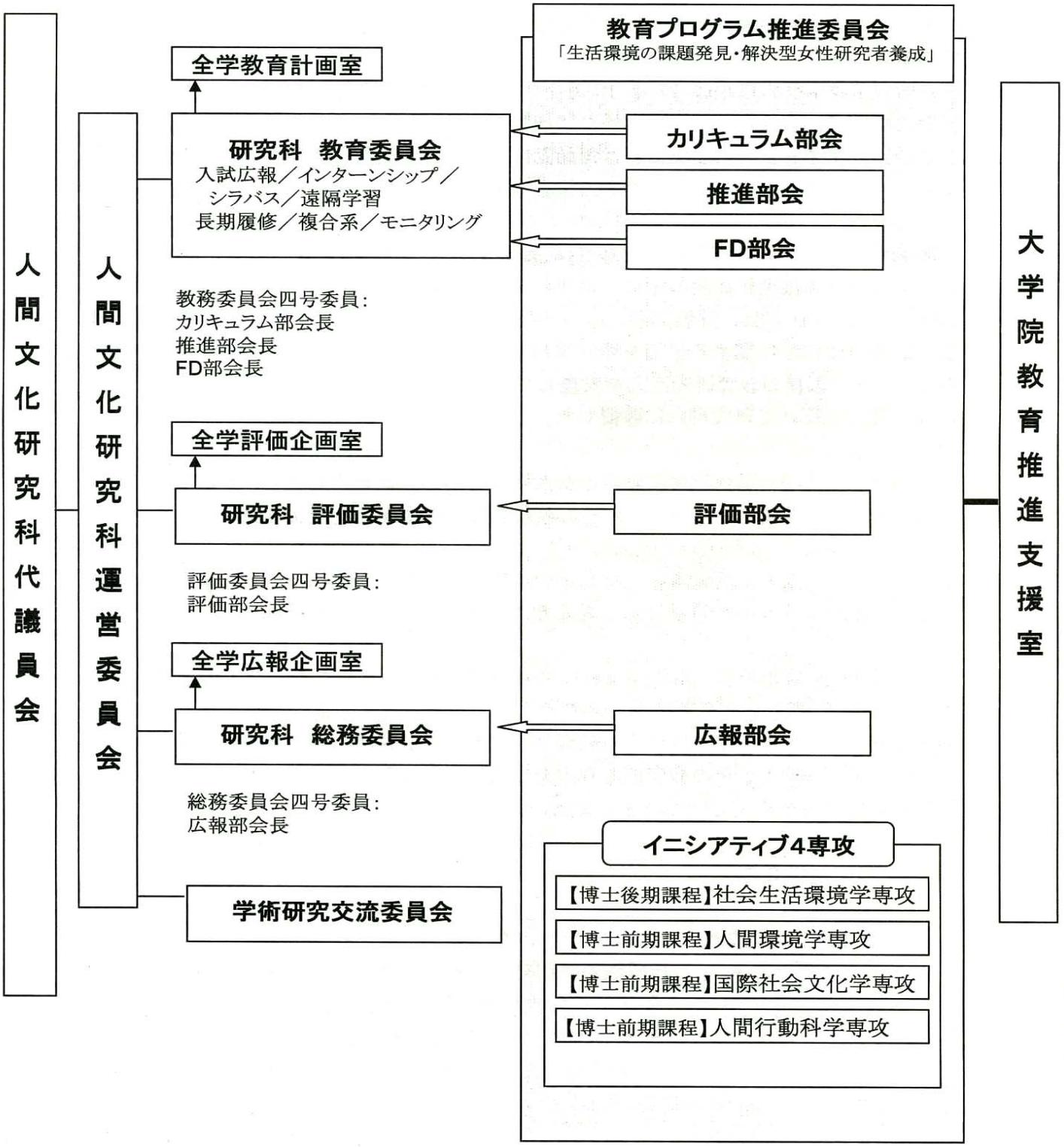
そして、文学系と生活環境系でなりたつ本教育プログラムに係る専攻の教員が、一丸となって本プログラムの進展に取り組んだことは、本学にとって画期的なこととなった。

「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」という教育プログラムの本質的な目標にむかって、新しい科目群とコースワークによる教育効果の検証作業が来年度から重要となる。本報告書を来年度以降の教育プログラムの改善に活用し、教育効果と改善点をフィードバックし、その教育のあり方を常に問いなおしながら、次世代にむけた大学院教育のあり方を考えていくこととしたい。

平成18年3月

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ
教育プログラム名：「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」
奈良女子大学大学院人間文化研究科
教育プログラム推進委員会委員長　今井　範子
（取組実施担当者　責任者）

平成17年度　教育プログラム推進委員会と人間文化研究科組織の関係



目　　次

はじめに …… 1
取り組みの全体像 …… 5
点検・評価の実施にあたって …… 7
概評 …… 9
自己点検・評価項目
1「目的がイニシアティブ構成員に周知されているか」 …… 11
2「目的が社会に広く公表されているか」 …… 13
3「教育の目的や授与される学位に照らして、教育課程が体系的に編成されており、目的とする学問分野や職業分野における期待にこたえるものになっているか」 …… 14
4「研究指導に対する適切な取り組みが行われているか」 …… 15
5「大学として、イニシアティブの目的に沿った形で、院生が身につける学力、資質、能力や養成しようとする人材像についての方針が明らかにされており、その達成状況を検証・評価するための適切な取り組みが行われているか」 …… 17
6「授業科目や専門、専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか」 …… 18
7「学習相談、助言が適切に行われているか」
8「特別な支援を行うことが必要と考えられる者への学習支援が適切に行われているか」 … 19
9「学生の自主的学習を支援する環境が整備され、機能していること。また、学生の活動に対する支援が適切に行われていること」 …… 21
10「自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか」 …… 22
11「学生の経済面の援助が適切に行われているか」 …… 23
12「ＦＤについて、学生や教職員のニーズが反映されており、組織として適切な方法で実施されているか」 …… 25
13「ＦＤが、教育の質の向上や授業の改善に結びついているか」 …… 27
14「教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取り組みが適切になされているか」 …… 28
15「イニシアティブの目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための経常的収入が確保されているか」 …… 29
16「適切な収支にかかる計画等が策定され、関係者に明示されているか」 …… 30
巻末資料
巻末資料リスト …… 31
別添資料リスト …… 114